

ロシア沿海州の森にクマを追う

山崎晃司¹、泉山茂之²、釣賀一二三³、小池伸介⁴、後藤優介⁵

(1 東京農大、2 信州大、3 道総研、4 東京農工大、5 茨城県博)

北海道の利尻島から西に少し視線をずらすと、ロシア沿海州の大地に行き当たります。シホテアリン山脈が連なり、モンゴリナラやゴヨウマツの深い森が広がります。同地には、ツキノワグマとヒグマに加え、トラ、オオカミ、リンクス、カワウソなどの食肉類、偶蹄類ではヘラジカ、アカシカ、ニホンジカ、ノロジカ、ジャコウジカなどの多様な動物が同所的に生活します。日本の最終氷期の頃の動物相も同様だったことを考えるとわくわくする場所です。

2015年から、ロシア科学院、シホテアリン管理事務所、Wildlife Conservation Societyとの協働で、ツキノワグマとヒグマの種間関係に関する研究に着手しました。これまでに、両種を捕獲してGPS首輪を装着してきました。首輪には、近接センサーが組み込まれています。GPSによる位置測位で両種が200m以内に接近した場合、それぞれのクマの軌跡の測位を分単位で行えます。また、近年は気候の温暖化の影響で、台風の進路が変わり日本を通り抜けた台風が沿海州を度々直撃しています。そのため、沿海州の豊かな森は大規模面積での風倒木の発生や土石流などによって大きく改変されています。このような森林の損失に対し、2種類のクマがどのように応答しているかも研究のテーマです。

ただし、ロシアでの調査は計画通りにはほぼ進みません。森の深さや機材の物流の困難さに加え、研究に必要な許認可取得に気の遠くなるような時間と忍耐も必要です。それを楽しむ心の余裕が求められます。